

事業名	未帰還者留守家族等援護費		
細事業名	中国残留邦人等交流事業費	財務コード	170004
担当部課室	福祉保健 部 国保援護 課 援護恩給 担当 (内線)	3120	

調書番号	29
------	----

I 事業の概要

実施期間	始期 S49 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
目的	だれ(何)を対象に 中国からの帰国者及びその家族	その対象をどのような状態にして 既に自立定着している帰国者と交流し、山梨県の産業、文化等や各地域の習慣、文化等について理解を深める	結果、何に結びつけるのか 地域への定着、地域での自立した生活
	内容 1 中国帰国者体験発表交流会 既に自立している中国帰国者の帰国後の職場や日常生活に係る体験発表、意見交換を通じ、中国帰国者の早期定着、自立促進を図る。参加予定者 40人 2 中国帰国者郷土見学会 山梨県内の風土、産業、文化及び歴史を学ぶことができる施設等を見学し、それらについて理解を深める。参加予定者 40人		

II 事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

区分	指標	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
活動指標	出席者数	目標 80	80	80	80	80	80	370
	中国帰国者体験発表交流会(～H30)、郷土見学会、高齢者向け「日本語交流サロン」(H31～)	実績(見込) 40	38	40	40	40	39	
		達成率 50.0	47.5	50.0	50.0	50.0	48.8	
		達成区分 c	c	c	c	c	c	
成果指標	目標							
	実績(見込)							
	達成率							
	達成区分							
決算(予算) 単位:千円		126	130	104	116	113	90	429

III 事業の評価(平成29年度の業績評価)

活動指標	b	評価 中国帰国者体験発表交流会については、近年、新たに、本県に帰国した者がいなかったため、実施しなかったが、郷土見学会については、過去5年間の平均参加者数が目標の99.0%となっており、ほぼ定員で実施できている。 中国帰国者体験発表交流会については、近年、新たに、本県に帰国した者がいなかったため、実施しなかったが、郷土見学会については、山梨県の現状や歴史、文化などを知ることができる有意義な機会として、参加した帰国者から高い評価を受けている。
成果指標	b	

・「活動指標、成果指標の達成率」から事業の活動量、成果に係る一次評価の考え方を記載すること。
 ・指標がない場合や指標を補足する必要がある場合には、指標によらない成果を用いて記載すること。

IV 見直しの必要性(平成31年度に向けた改善等の考え方)

県関与の必要性	判定	<input checked="" type="checkbox"/> 必要性が高い <input type="checkbox"/> 必要性がある程度認められる <input type="checkbox"/> 必要性が低い
	説明	<input type="checkbox"/> 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される <input type="checkbox"/> 事業の拡大や充実を求める意見・要望が増えている <input type="checkbox"/> 法令等により、県が実施することが義務づけられている <input type="checkbox"/> 県が実施しないと、県民生活に深刻な影響が生じる <input type="checkbox"/> 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で困難である。 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ()
有効性(成果向上)	判定	<input type="checkbox"/> 大幅な成果向上が可能 <input type="checkbox"/> 成果向上が可能 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上はあまり望めない
	説明	参加した帰国者から高い評価を受けており、事業の性質上これ以上の成果を望めない。
見直しの余地	判定	<input type="checkbox"/> 見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 見直す余地がある程度ある <input type="checkbox"/> 見直す余地がない
	説明	<input type="checkbox"/> 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある <input type="checkbox"/> 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト削減を検討する余地がある <input type="checkbox"/> その他 ()
その他	説明	
見直しの必要性	有	中国帰国者体験発表交流会については、平成25年度以降、新たな帰国者がおらず開催しなかったこと、また、全国的に帰国者が減少していかで、本県に新たに帰国する者が見込まれないことから、予算規模の縮小を図る。

V 見直しの方向(平成31年度当初予算等での対応状況)

拡大	説明	中国帰国者体験発表交流会について、必要に応じて開催することとし、事務を削減した。また、新たに「高齢者向け「日本語交流サロン」」を実施することとした。なお、「日本語交流サロン」については、他の事業(中国残留邦人等自立支援事業)と併せて事務内容を見直すなかで、両事業全体で再編した。
----	----	---

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、IV見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。